

和歌山市駅前地区第一種市街地再開発事業施設建築物

基本設計報告書
(公益施設棟抜粋)

和歌山市民図書館

I-1. 和歌山市駅の現状と再生

(1) 和歌山市駅の現状と課題

- ・急激な人口減少（城北地区で昭和40年代の1万人から半減）
- ・駅利用者の減少（ピーク時5万人から2万人に減少）
- ・都市機能の流出、周辺市街地の衰退



ターミナル駅としての拠点性の減退→駅周辺の衰退イメージの象徴となっている。
 交通結節点機能が不十分→自家用車乗降場が未整備、バス停車場が分散

(2) 「再生のしかけ」により新たな姿へ

- ・和歌山市民図書館の移転整備（耐震上問題の解決と市民の憩える場づくり）
- ・市民が集える場づくり（駅という立地を活かした新しい交流の場づくり）
- ・和歌山市の玄関口としてふさわしい良好な景観を創出



和歌山市駅周辺のイメージを刷新→良好な都市イメージの創出
和歌山市駅周辺に対する民間投資と都市機能の集約を誘導

(3) 再開発事業の推進

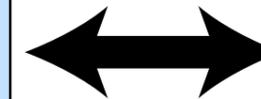
- 和歌山市駅前を市民の都市生活拠点として再構築する
 - ・市の行政機関が集約している和歌山城周辺地域と、市の玄関口である JR 和歌山駅および南海和歌山市駅と、それを結ぶけやき大通りが市の中心市街地として位置づけられる。
 - ・ターミナル駅としての拠点性が減退していく市駅一方で、JR 和歌山駅周辺は、和歌山市の玄関口として開発が進んでおり、高密度でまちの中心機能を担っている。都市的なイメージの JR 和歌山駅周辺に比べ、市駅周辺は北側に雄大な紀ノ川を臨み、和歌山港も近く自然豊かな景色がひろがっている。

市駅のポジショニングイメージ

南海和歌山市駅



JR和歌山駅



◀ 重厚な外観の現在の和歌山市駅

- ・市駅は、今までは重厚な外観による駅としての存在感があった。このイメージを刷新し、JR 和歌山駅と異なった位置づけで展開していくことで、新たに市駅の活気を創り出し、市駅を中心としたまちの活性化を図る。

これからは滞在、集い、交流する、人が主役の新しい市駅へと再生する。





和歌山市民図書館
Wakayama
Civic
Library

NANKAI 和歌山市駅

NEKANCTEIIAR

南側外観パース



※駅前広場は現況のものであり今後整備予定となっています

I-1. 設計コンセプト

(1) 基本理念

図書館がつなぐ—「本と人」「人と人」「人とまち」—

知・情報・交流・くつろぎの拠点

■本と人—知・情報の拠点—

図書館を目的とする来館者だけではなく、駅利用者や店舗利用者が気軽に立ち寄れる図書館を目指す。本を閲覧し、借りるという図書館の基本機能を強化し、わくわくする絵本や人生を左右するような本との出会いの場を創出する。また、市民の新たな課題解決の要求に応え、「困った時は図書館へ」と思える図書館となることで、本と人をつなぐ。

■人と人—交流・くつろぎの拠点—

人と人をつなげる仕掛けづくりを図書館が担い、市民の力を活用した「みんなで育てる図書館」を作る。図書館内部の交流・くつろぎスペースだけでなく、商業施設と一体的に整備する再開発という利点を生かし、様々な人が交流し、くつろぐ場所を再開発の施設全体で考える。市民の滞留時間を増やし、賑わいを創出し、それぞれの相乗効果が期待できるような計画をおこなう。カフェや展示イベントコーナー、集会室等が市民の新たな交流・くつろぎの拠点となり、人と人のつながりを育む図書館を目指す。

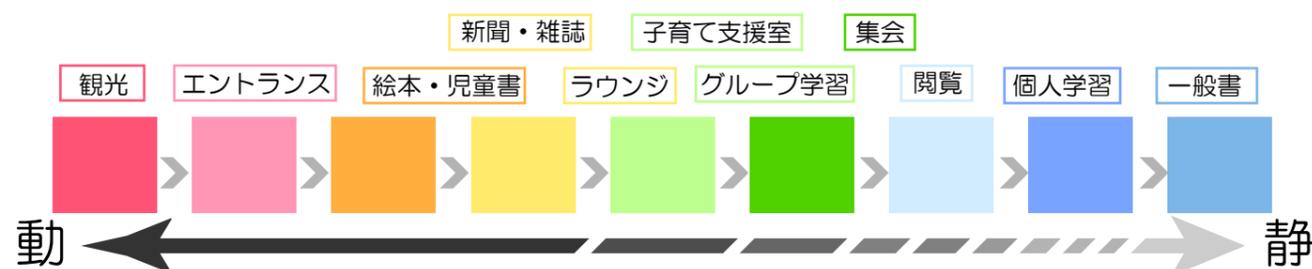
■人とまち—駅からまちへ

図書館・駅・商業施設をつなぐことで駅が活性化し、それがまちへ広がるのが本計画の目的の一つである。図書館が、まちのイベント情報やおすすめスポットなどまちの情報を収集し、発信することにより、人とまちをつなぐ。

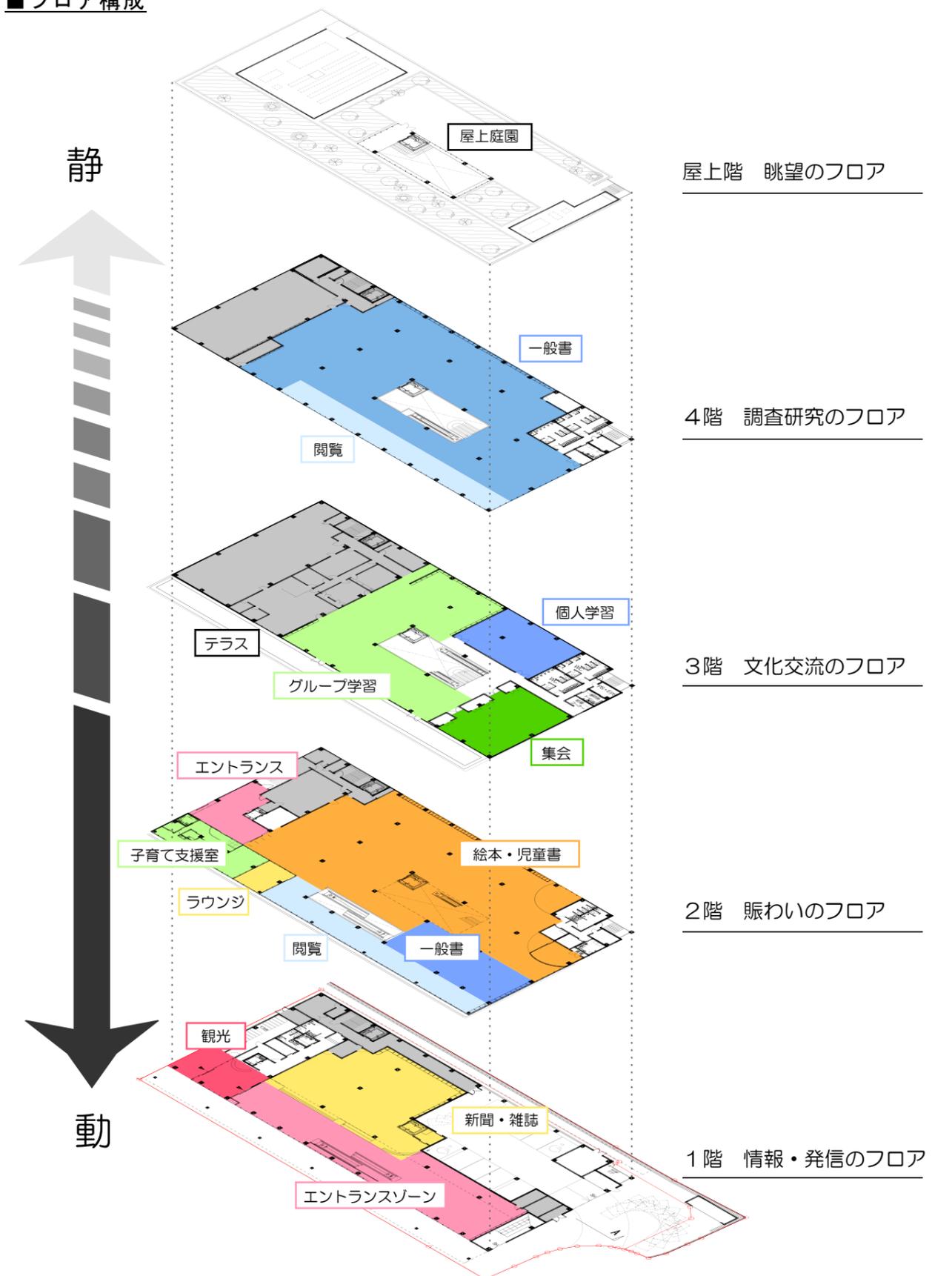
(2) ゾーニング・動線計画

■音の階層化

- ・交流ゾーンと静寂なゾーンを平面・断面ともに段階的に結び付ける
- ・市民にとってわかりやすいゾーニングと動線を計画する
- ・合理的なサービス動線計画と搬入動線計画に配慮する

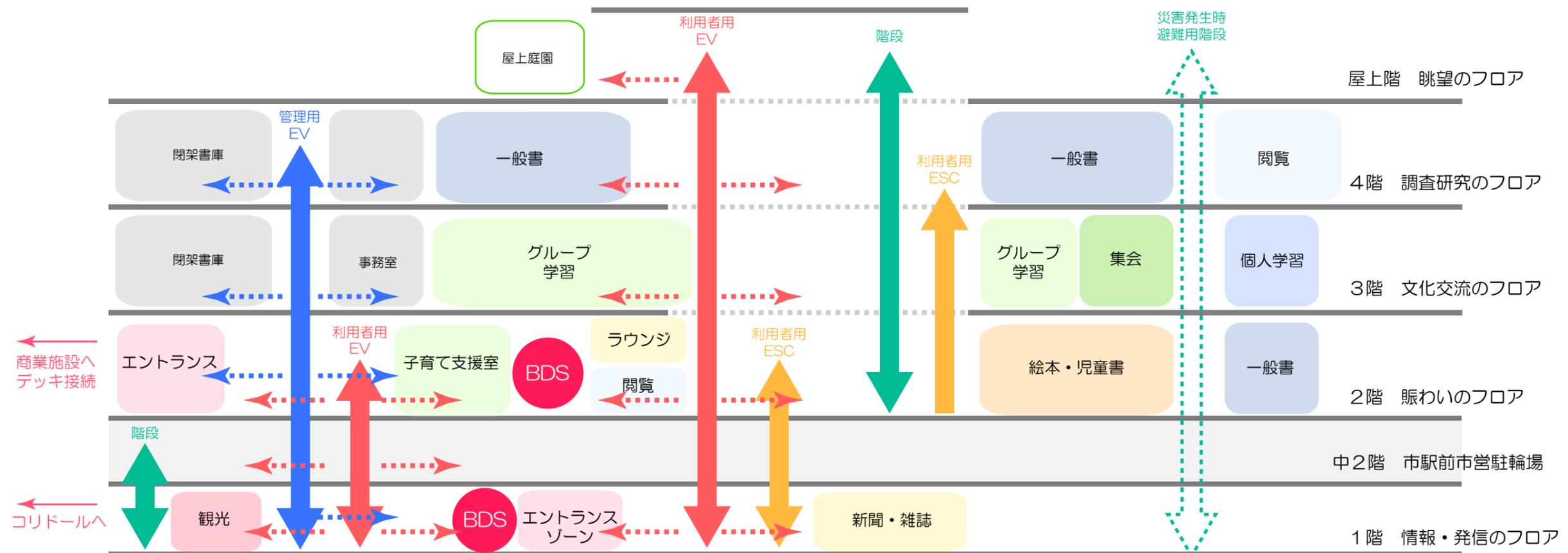


■フロア構成



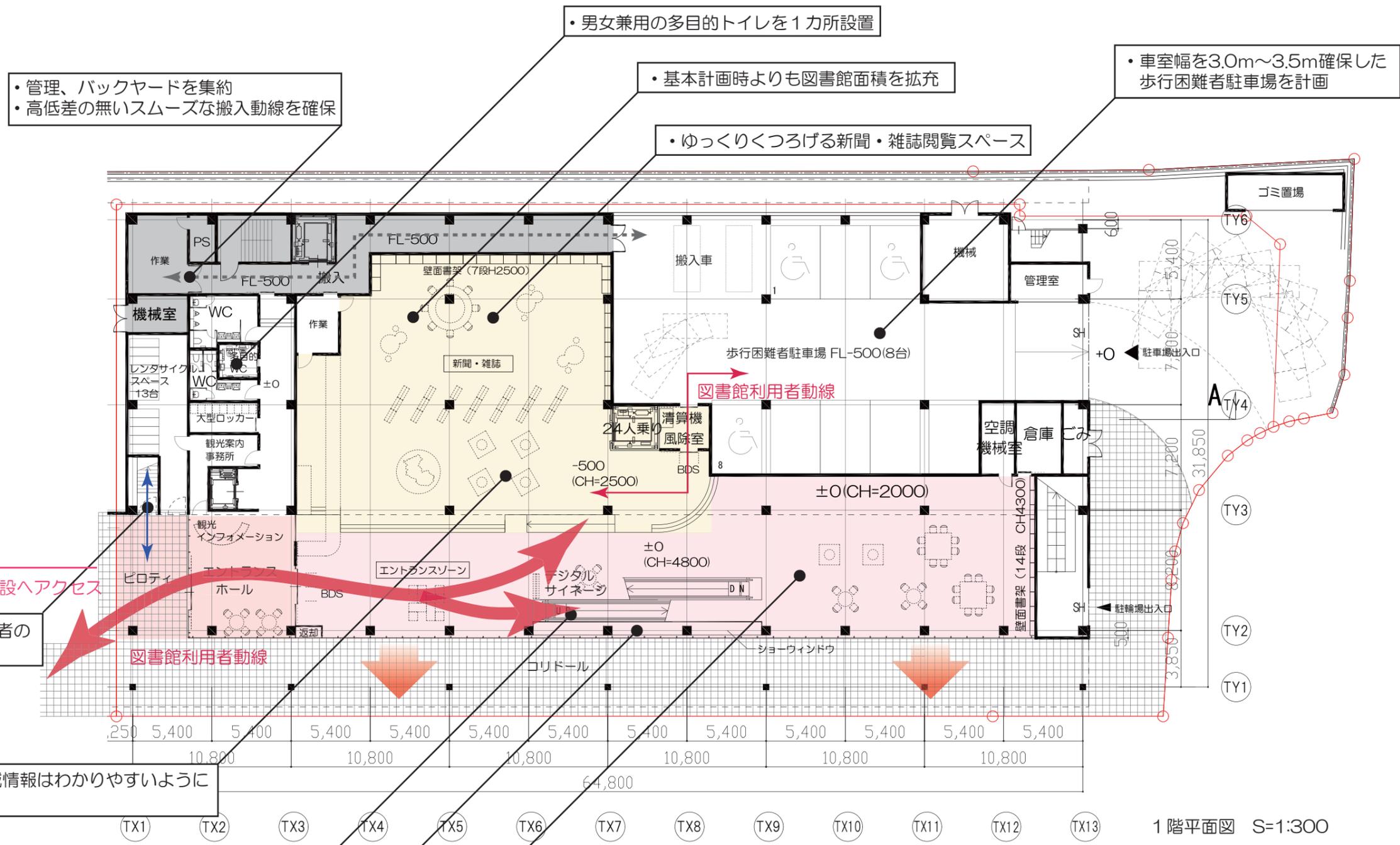
(3) 断面ダイアグラム

- アクセスの多い1階2階の動線をスムーズに結ぶため、EV・ESCを設置
- 管理機能、バックヤードを集約
- 災害発生時は、北側屋外避難階段で屋上庭園へ避難することができる



I-2. 平面計画

■ 1階



・管理、バックヤードを集約
・高低差の無いスムーズな搬入動線を確保

・男女兼用の多目的トイレを1カ所設置

・基本計画時よりも図書館面積を拡充

・車室幅を3.0m~3.5m確保した歩行困難者駐車場を計画

・ゆっくりくつろげる新聞・雑誌閲覧スペース

商業施設へアクセス

・中二階の駐輪場利用者の駅へ向かう動線配慮

・和歌山市の「顔」となる地域情報はわかりやすいように入り口近くに配置

・視認性が高く、アプローチしやすいESC
・人の動きを視覚化

・コリドール、駅前広場に向けて、図書館や和歌山市の情報を発信

・コリドール、駅前広場に向けて賑わいを見せる空間
・イベントにも対応



■ :バックゾーン

1階 情報・発信のフロア

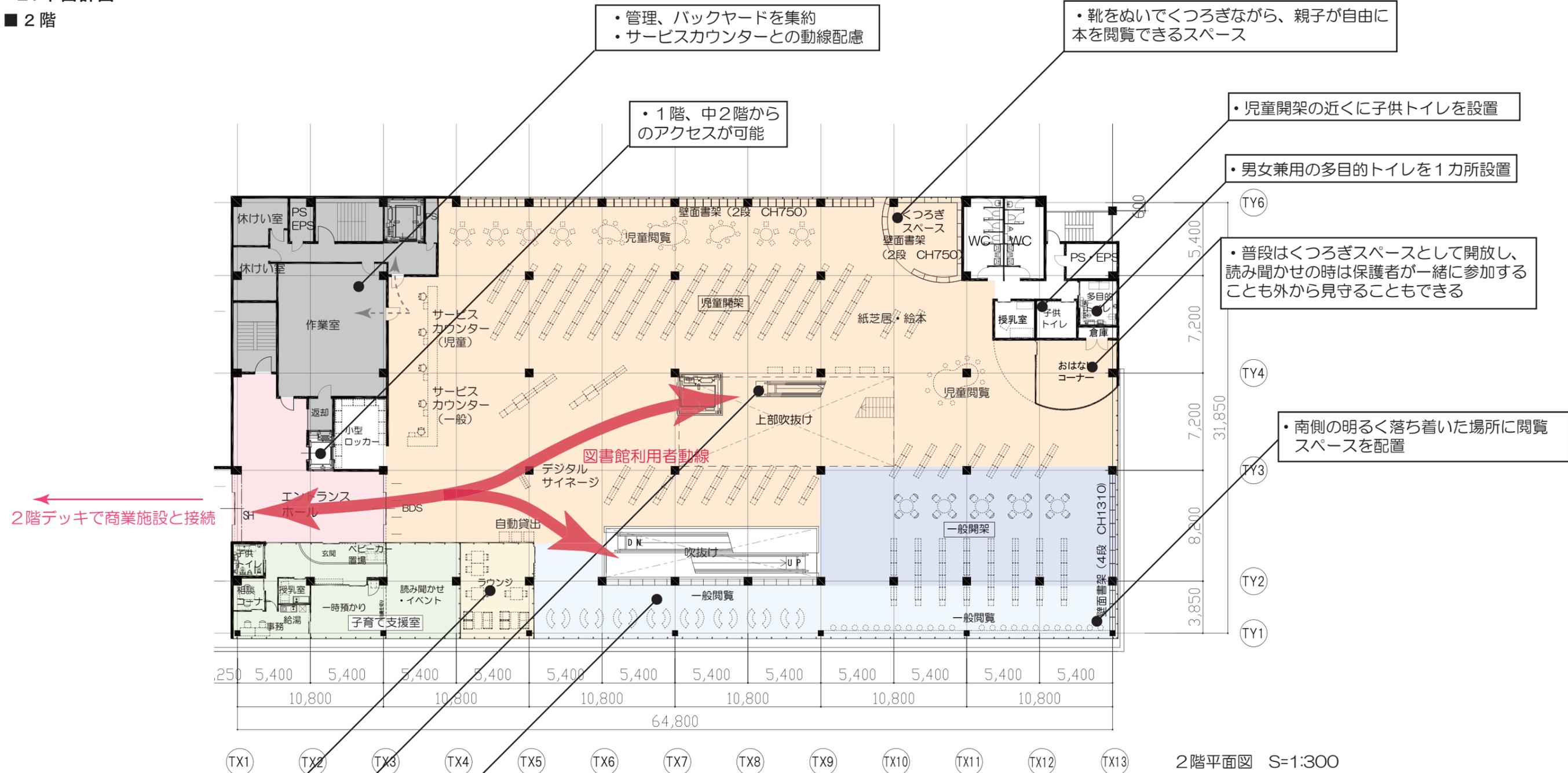
商業施設と接続するエントランスホールを中心に、観光インフォメーションや地域情報、また特集展示など配置し、来館者を歓迎し、ゆっくりくつろげ、和歌山市の文化と触れ合い・発見することのできる空間とする。

※書架・什器の配置はイメージです

1階平面図 S=1:300

I-2. 平面計画

■ 2階



・管理、バックヤードを集約
・サービスカウンターとの動線配慮

・靴をぬいでくつろぎながら、親子が自由に本を閲覧できるスペース

・1階、中2階からのアクセスが可能

・児童開架の近くに子供トイレを設置

・男女兼用の多目的トイレを1カ所設置

・普段はくつろぎスペースとして開放し、読み聞かせの時は保護者が一緒に参加することも外から見守ることもできる

・南側の明るく落ち着いた場所に閲覧スペースを配置

2階デッキで商業施設と接続

・飲食が可能

・視認性が高く、アプローチしやすいEV・ESC



■ :バックゾーン

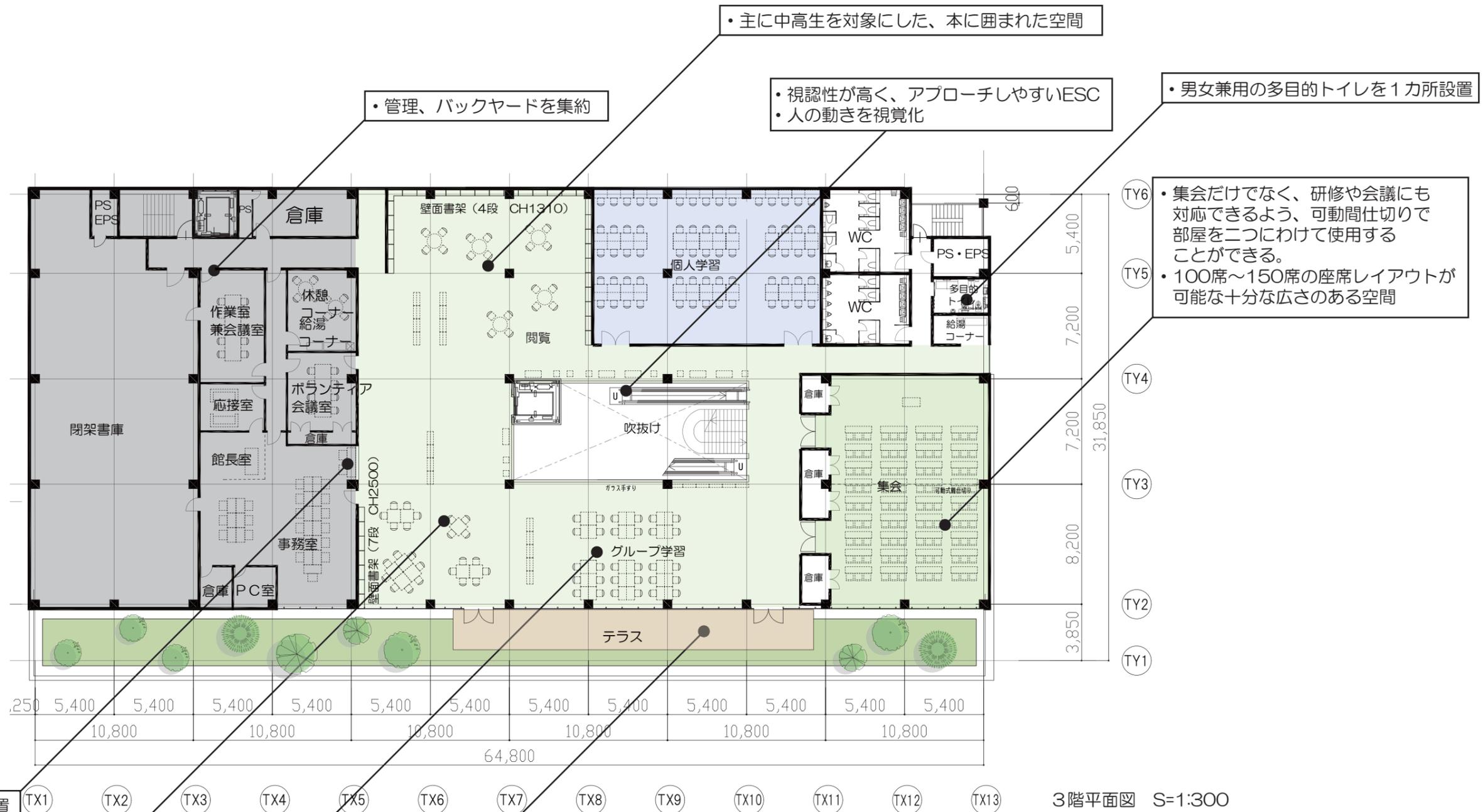
2階 賑わいのフロア

子供を中心としたフロアとし、児童書その他、子育てに関連した一般書を配架する。子育て世代も気軽に利用できるように、子育て支援室を設ける。

※書架・什器の配置はイメージです

I-2. 平面計画

■ 3階



3階 文化交流のフロア

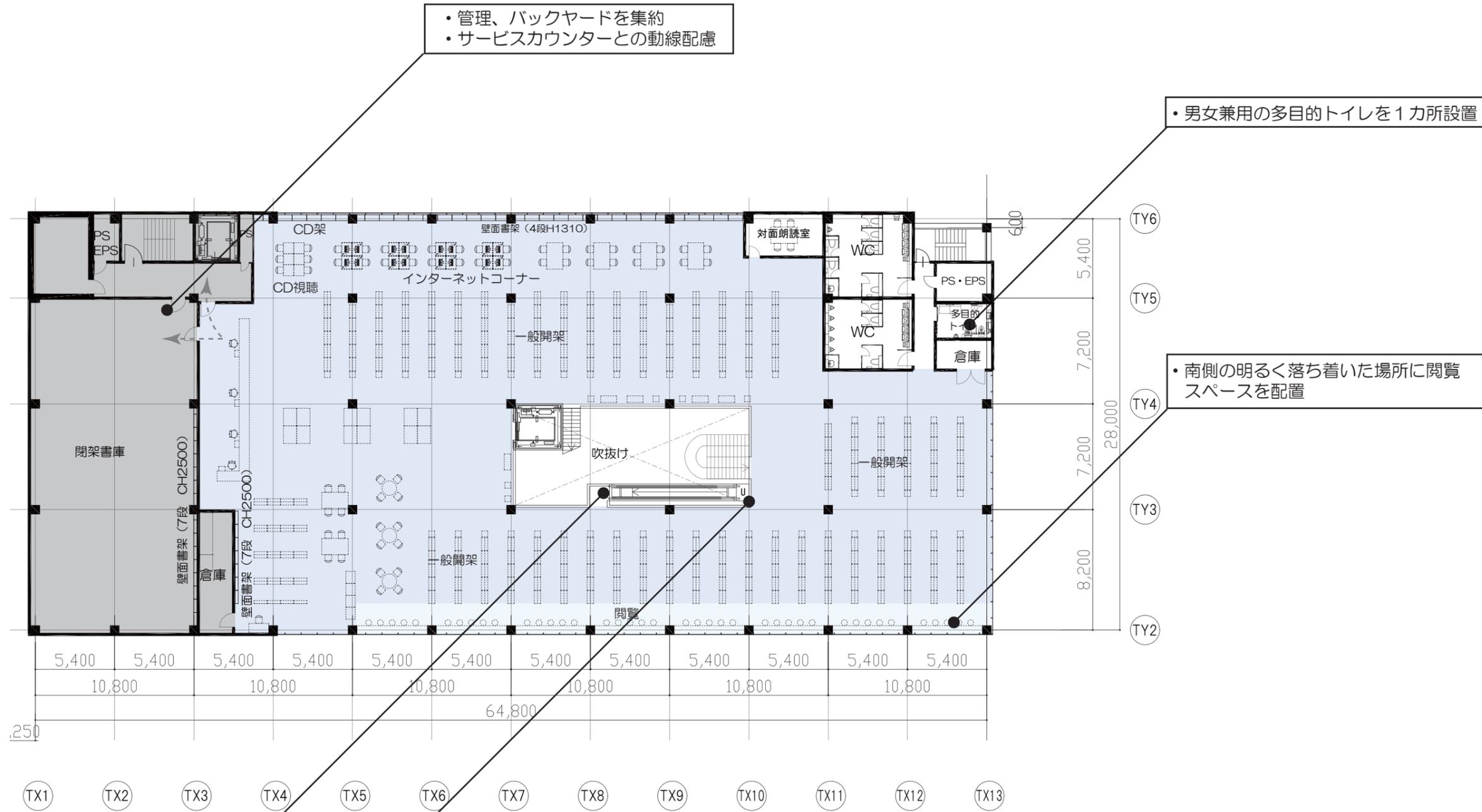
誰でも気軽に利用できる個人学習室と、演奏会、音楽会、各種講座等を開催できる集会室を備えるとともに、インターネット環境を設け、ビジネスマン等も利用できるフロアとする。

■ :バックゾーン

※書架・什器の配置はイメージです

I-2. 平面計画

■ 4階



・管理、バックヤードを集約
・サービスカウンターとの動線配慮

・男女兼用の多目的トイレを1カ所設置

・南側の明るく落ち着いた場所に閲覧スペースを配置

・視認性が高く、アプローチしやすいESC
・人の動きを視覚化

・音に配慮し、ガラス壁面とする

4階 調査研究のフロア

一般書のうち「人文」「社会」「自然」各分野を中心に、専門的な資料も含め配架する。
調査研究機能を充実させ、静かな落ち着いた環境で、読書・学習・調査研究を行うことができる

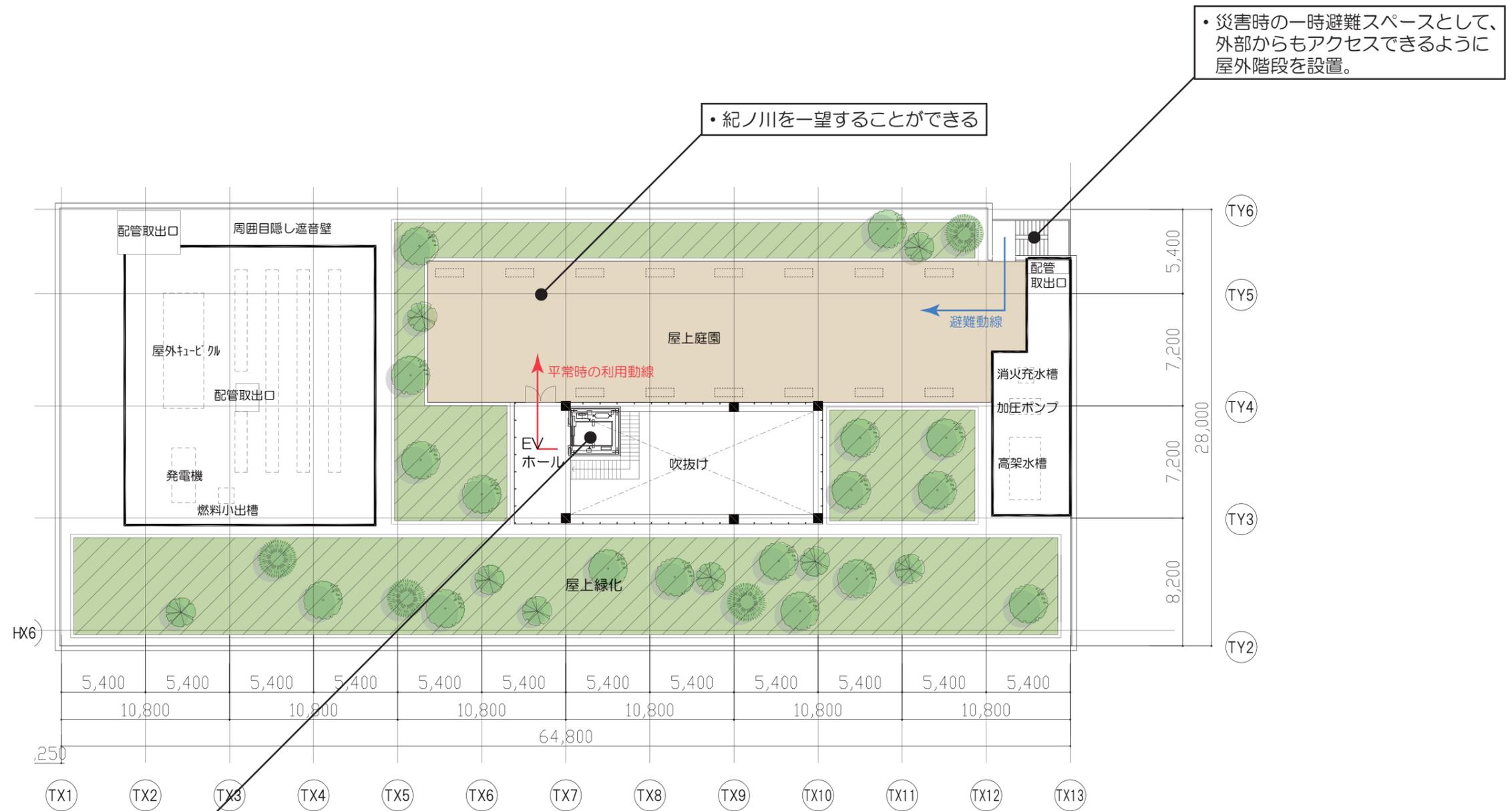
■ : バックゾーン

4階平面図 S=1:300

※書架・什器の配置はイメージです

I-2. 平面計画

■ 屋上階



・紀ノ川を一望することができる

・災害時の一時避難スペースとして、外部からもアクセスできるように屋外階段を設置。

・EVを屋上階に着床させ
バリアフリー動線を確保

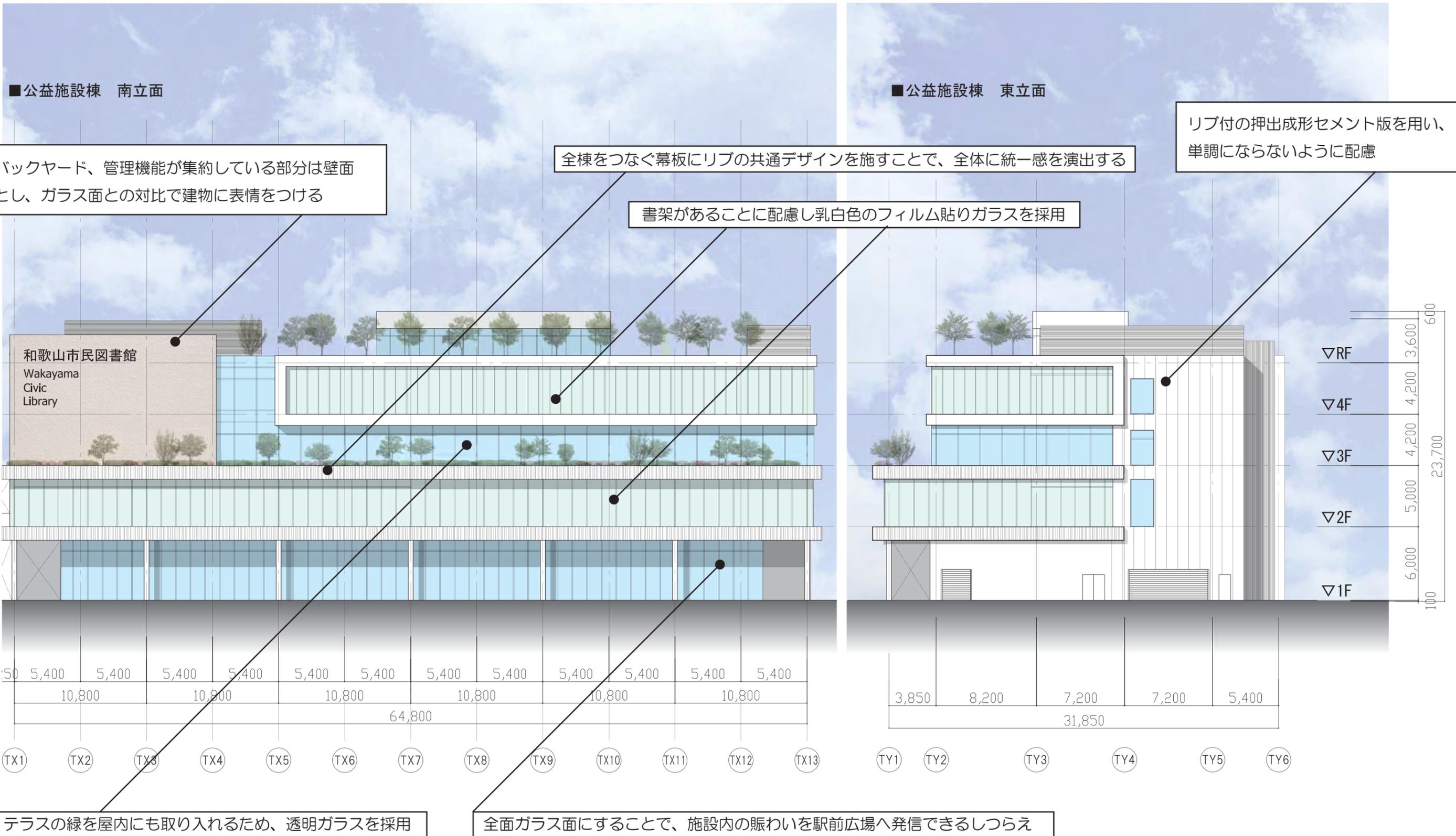
屋上階平面図 S=1:300

屋上階 眺望のフロア

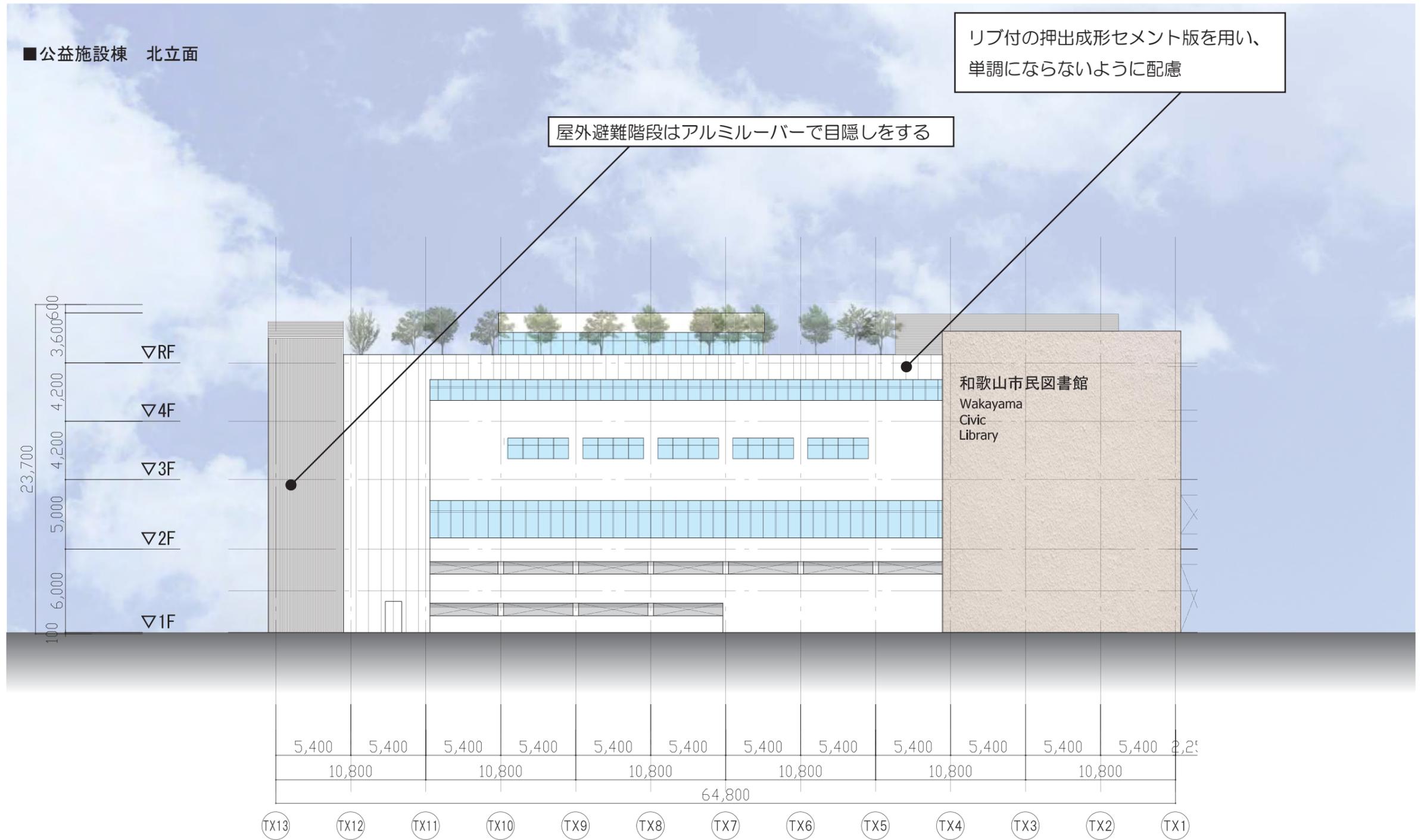
紀ノ川を一望でき、憩いと安らぐことの出来る屋上庭園。災害や水害発生時には一時避難スペースとして機能する。

■ :バックゾーン

I-3. 外観・立面計画



I-3. 外観・立面計画



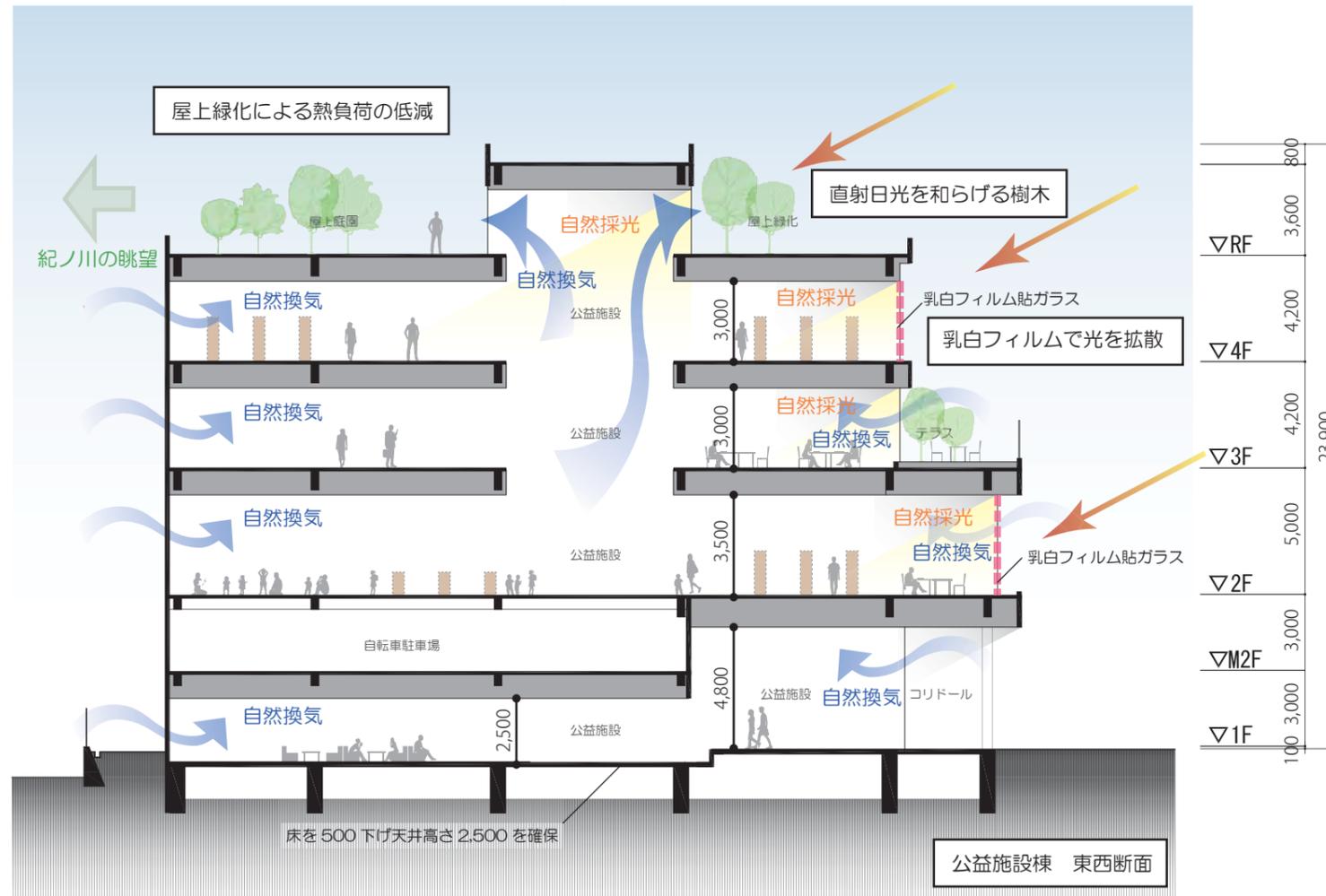
I-4. 断面計画

(1) 断面計画と天井高さ

- ・1階は商業・ホテル棟のコリドール高さ合わせ、階高6,000とし、エントランスの天井高さを4,800とする。
- ・1階図書館北側部分は、中二階に自転車駐車場があるため、下部にあたる床を500下げ、天井高さ2,500を確保する。
- ・2階は商業施設と接続するメインフロアとなるため、商業棟・ホテル棟と階高を合わせ5,000確保し、天井高さは3,500とする。
- ・3階、4階はコスト合理性より階高4,200とし、天井高さ3,000とする。

(2) 熱負荷の低減と室内環境への配慮

- ・書架への直射日光を制御するため2階と4階南面のガラスは乳白フィルム貼りとし、室内にやわらかい光を拡散させる。
- ・3階と屋上階は透明ガラスとし、テラス・屋上緑化と視覚的な一体感を出す。
- ・屋上緑化により空調熱負荷を低減する。
- ・中間期に心地よい空気の流れを感じる、自然換気システムを計画する。





公益施設棟 1階

